

氏名	正岡佳久
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第5254号
学位授与の日付	平成27年12月31日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Fever after lung radiofrequency ablation: Prospective evaluation of its incidence and associated factors (肺のラジオ波焼灼療法後の発熱について: その頻度や関連する因子の前向きな検討)
論文審査委員	教授 三好 新一郎 教授 藤原 俊義 准教授 金廣 有彦

### 学位論文内容の要旨

肺ラジオ波焼灼療法後の発熱に関して、その頻度や関連する因子について、前向きな検討を行った。

肺ラジオ波焼灼療法が施行された56名、67セッションにおいて、肺ラジオ波焼灼療法後の発熱(37℃以上)をCTCAE(common toxicity criteria of adverse events)v. 4.0に従って、grade 0(≥37℃、<38℃)、grade 1(≥38℃、≤39℃)、grade 2(>39℃、≤40℃)と程度別に分類した。67セッションを発熱の有無で2群に分け、関連する因子を単変量解析、多変量解析にて解析を行った。その次に、発熱の見られた群をgrade 0とgrade 1以上の2群に分け、同様に関連する因子の検討を行った。

肺ラジオ波焼灼療法後の発熱は49例で見られ、grade 0は36例(54%)、grade 1は11例(16%)、grade 2は2例(3%)であった。

発熱と有意に関連性が見られた因子は、焼灼肺実質の体積( $P = 0.001$ )、肺浸潤影( $P = 0.004$ )であった。さらに、肺浸潤影がgrade 1以上の発熱と有意に関連していた( $P = 0.048$ )。

### 論文審査結果の要旨

本研究は肺ラジオ波焼灼療法(RFA)後の発熱に関して、その頻度および関連する因子について前向きな検討を行ったものである。本研究者はRFAを施行した56例、67セッションにおいて、RFA後の発熱(37℃以上)をCTCAE(common toxicity criteria of adverse events)v. 4.0に従って、grade 0(=or>37℃、<38℃)、grade 1(=or>38℃、=or<39℃)、grade 2(>39℃、=or<40℃)に分類した。67セッションを発熱の有無で2群に分け、関連する因子について単変量解析、多変量解析を行った。また、発熱の見られた群をgrade 0とgrade 1以上の2群に分け、同様に関連する因子の検討を行った。その結果、RFA後の発熱は49例で見られ、grade 0は36例(54%)、grade 1は11例(16%)、grade 2は2例(3%)であった。発熱と有意な関連性が見られた因子は、焼灼肺実質の体積( $p=0.001$ )、肺浸潤影( $P=0.004$ )であった。さらに、肺浸潤影がgrade 1以上の発熱と有意に関連していた( $P=0.048$ )。これらの知見はRFA後の患者管理に有用であり、価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。